



人を呼び込むまちづくり  
すみたくなるまち桐生

平成30年度自主研究グループ「桐生まちづくり研究会」研究報告

空き家対策室	小澤	佑哉
清掃センター	小原	智史
産業政策課	辻	勇一郎
市民生活課	大川	幹恵
下水道課	園田	実穂
広報課	大澤	善康



# 研究のテーマ

桐生の「持ち味」や「らしさ」を生かした

着物の似合うまちづくり

# 研究の背景

- 縮小社会に入り、目指すのは人口増ではなく、**持続可能なまち**  
一定の人口規模を維持することは必要

現在の桐生においては

- 総合戦略
- シティブランディング戦略
  - 市民の満足度の向上
  - 住み続けられるまち

重要性  
重点

# 研究の背景

人が住みたくなる  
街の魅力とは何か？

# 研究の背景

私たちの捉える「街の魅力」

街の特色・文化

生活の場としての充実

- 他の街には無い魅力
- その場所だけでできる体験



← 付加価値としての魅力

← インフラ、政策、経済

どこでも求められる  
普遍的なもの

# 研究の背景

• 例えば

京都の歴史的な町並み



長野県妻籠宿の地域文化

# 研究の背景

地域資源を見つめ直し活用するまちづくり  
「地域の価値を見出し、将来に向けて  
住人が誇りを持てる地域社会を形成」

⇒自分たちの地域がどのように生きてきたか、に価値がある

# 研究の背景

## 〈仮説〉

「桐生らしさ」「魅力」を活かしたまちづくりを行うことで  
人を惹きつける、持続可能なまちを創ることができる

# 研究の背景

- 桐生にはどんな地域資源があるか？

# 研究の目的

1. 「桐生らしさ」「桐生の魅力」とは？
2. それをどのように活かすか？

# 市民ワークショップへの参加

## 「平成30年度地域づくりワークショップ」へ参加

- 「地域の課題を知る」「対話方法を学ぶ(ファシリテーションの実践)」を目的とし、プロジェクトチーム活動の一環として参加
- NPOなどで活動している地域の方々、自治会役員の方、桐生第一高校生、地域おこし協力隊の方など、地域の方々と一緒に、桐生について話し合うグループワークを行う

# 市民ワークショップ ～理想の桐生とは？～

## 第1回「理想の桐生とは？」



# 市民ワークショップ ～理想の桐生とは？～

## 第2回「伸ばしたい資源、解決したいこと、理想の未来」



# 市民ワークショップ ～理想の桐生とは？～

- 市民の人々が考える「桐生らしさ」とまちづくりとは？

「桐生らしさ」＝「織都桐生」が  
今も桐生に関わる人の中にある

# 着物アンケート

しかし…

織都桐生は「過去のもの」という声

現状、着物を日常的に着用する人はほとんど居ない

=市としての統一感や雰囲気を追いついていない



なぜ着物を着る人が少ないのか？織物をどのように思っているのか？

アンケート調査を行い、分析結果をもとに提案を行う

# 着物アンケート 概要

調査名：職員自主研究活動 着物に関するアンケート

調査方法：全庁掲示板への掲示後、データ・紙で回収

調査期間：2週間（H31.2.4～H31.2.15）

回収数：839

調査項目：「桐生市の誇りである繊維産業を応援する条例」を知っているか、等

# 着物アンケート 集計結果

- 着物、織物が「遠いもの」になってしまっている
  - 高価すぎる、着用が困難
  - 「特別な日に着るもの」という意識
- 着物について憧れを持つ人は半数以上

- 織物を身近なものにする必要
- 着物のハードルを下げる必要

# 着物を着たくなる街 ～織都桐生を見つめ直す～

## 「桐生市の誇りである繊維産業を応援する条例」(平成30年3月制定)

(前文) ～省略～

織物の繁栄を今に伝えるノコギリ屋根工場などの町並みを生かした着物の似合うまちづくりを推進することにより、**日常的に着物を着る**機会が増加していくことが望まれる**日常的に着物を着る**機会が増加していくことが望まれる

～中略～

私たちは、**桐生市の発展を支えた伝統産業**を尊重し、織物に代表される繊維産業の**文化を守る**とともに、伝統産業を積極的に活用する習慣を広め、**次の世代に継承していく**ため、この条例を制定する。

～省略～

# 着物を着たくなる街 ～織都桐生を見つめ直す～

「桐生は織物のまち、主役は着物ではない」と言われる...

- 着物を着る人が増える＝桐生らしい景観の造成につながるのでは？
- 繊維産業をもっと桐生らしいまちづくりに活かすアイデアは？

着物を着たくなる街～桐生らしさを見つめ直す

# 本自主研究からのアイデア

# 着物を着て業務を行う

- 着物を着て出勤できる日をつくる  
ex) 仕事始めの週など

浴衣着用期間の実績を生かす  
着物を着る機会を提供する

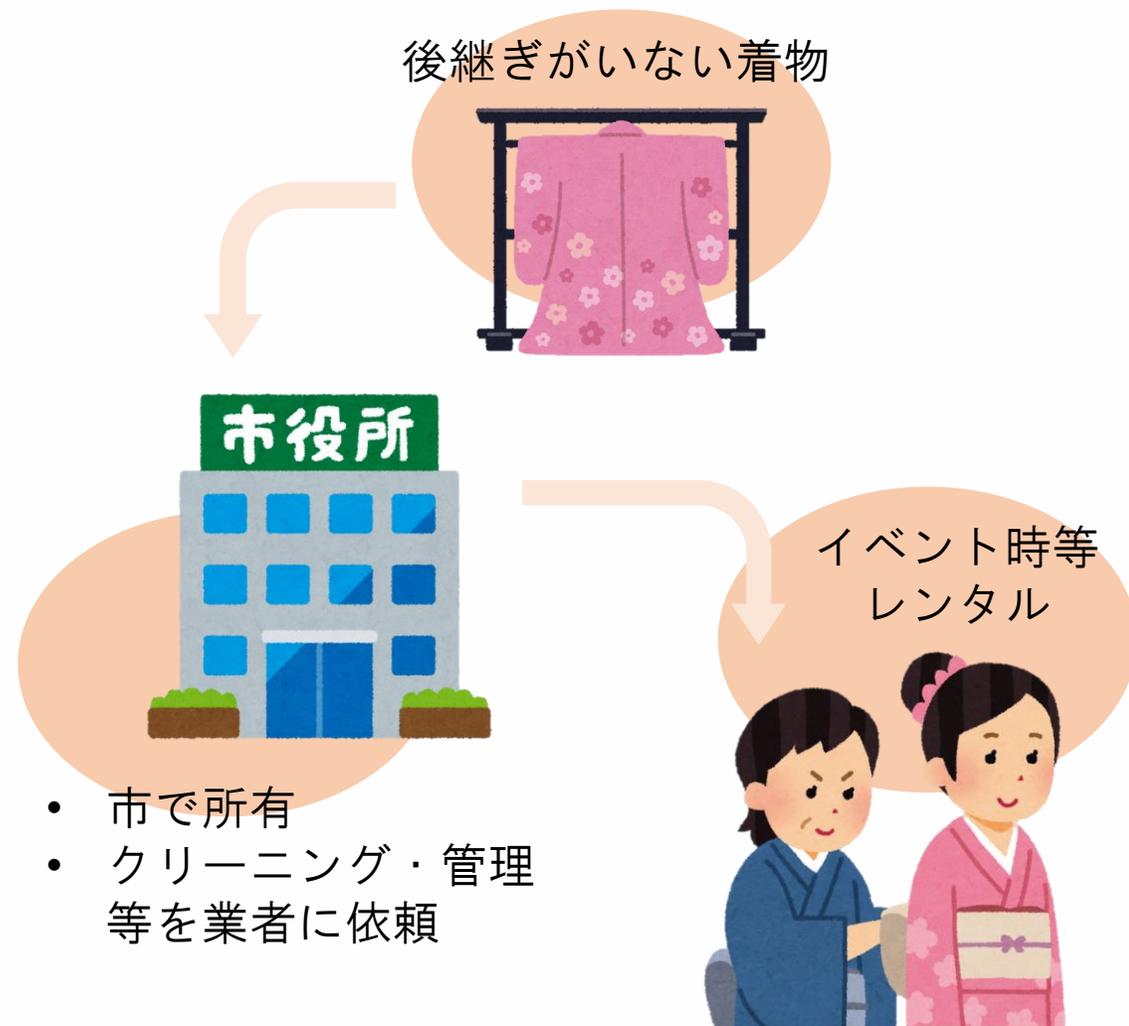
アンケート849人中195人が着物を所有

- 市長、副市長、部長職以上が会議や  
イベントにおいて積極的に着用する  
多くの人の目に触れアピールに



# 受け継ぐ相手のいない着物の受入れ

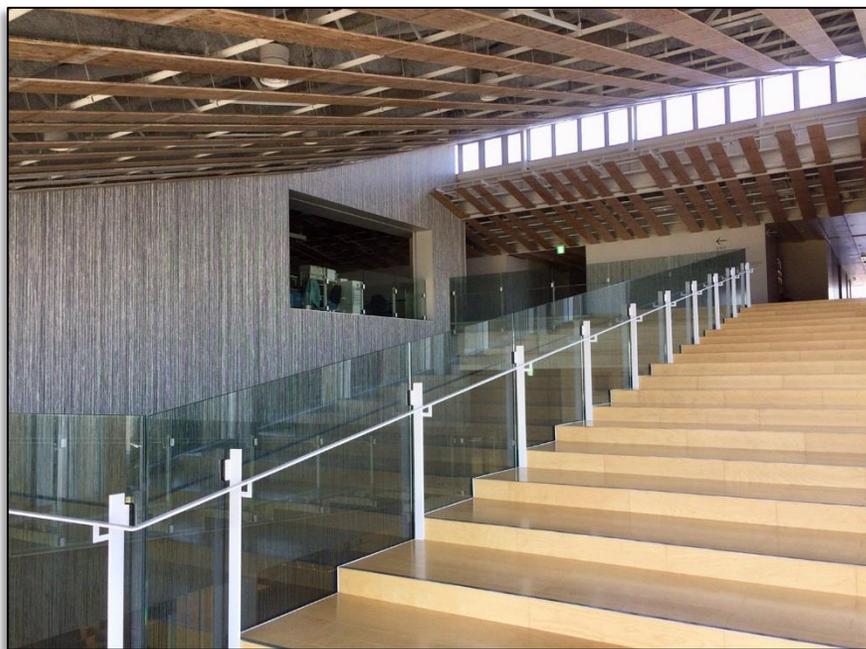
- 市民から受け継ぐ先がなくなった着物を受け入れる(ノウハウを持つ市内業者と提携し、管理を委託する)
- 市で着物を所有することで、主体的に着付を学ぶ機会をつくることが可能に  
ex) イベントでの着付け体験、新採用研修での着付け講座
- 着物に関するノウハウを持つ市民とのつながりをつくる(着付けの講師を依頼する等)



# 着物以外の織物製品を取り入れる

新市庁舎の象徴として織物壁紙や織物の意匠デザインなどを使用

富岡市役所  
キビソウオール



大島紬  
「秋名バラ柄」

着物以外の織物製品を積極的に  
使用することで地場産業に協力

奄美市役所  
外壁



## キノピーポロシャツに桐生織を取り入れる



- 桐生織の生地を一部使用したポロシャツシリーズを現行のポロシャツに加える  
職員自身が日常的に桐生織に親しめる  
市民の方の目に触れるためアピール効果大  
地場産製品の製造に貢献

# 桐生織のデザインデータを広報物に使用する



- 申請不要で広報物や工事看板等に使用できる、桐生織のデザインデータを用意する

デザインで桐生らしさを発信

市発信の広報物に統一性を持たせる

織物デザインテンプレートを使用した広報物のイメージ

## 桐生織を既存事業に活かす

- 動物園と桐生織のコラボレーション商品をつくる
- 福祉作業所での製品に桐生織の生地を使用する
- バスや電車など公共交通の車両の一部(シート、つり革、ラッピングなど)に桐生織や桐生織のデザインを使用する

⇒アンケート回答では繊維産業を応援する条例を業務に反映できる  
または協力できるといった回答が全庁的にあがった

市の事業全体に繊維産業の特色を活かす工夫をし  
「桐生らしさ」の統一感のあるまちづくりを行う



ご清聴ありがとうございました。